

## 42 ナイロンおよび絹の黄変

京都女子大 今井 政三  
今坂美智子

1 類似の化学構造をもっているナイロンおよび絹は実用上、黄褐変現象をすると云う共通の欠点をもっている。此の現象の理論的研究も行われているが未だ明確な原因は分っていない。又完全な防止法も見出されていない。我々は実用上の見地より、ナイロンおよび絹を洗剤等にて処理し、日光、赤外線、紫外線照射、熱処理を行って其の黄化現象を検討した。

2 絹羽二重、ナイロンタフタを、各種洗剤、酸、アリカリ、蛍光漂白剤、尿素、チオ尿素に浸漬後、日光、紫外線、赤外線照射、熱処理（100～170°C）を行い、Yellowness を検討した。尚 Yellowness の測定については検討すべき点が多いが、肉眼判定の併用によって大体の傾向を検討した。

3 大ざっぱな傾向のみにて、明確なことは分らないが、(1) 日光照射では、照射不充分の為、明瞭でないが、絹の黄変がやや大きい。(2) 紫外線では絹の黄変が大である。(3) 赤外線、熱処理ではナイロンの黄変が大である。(4) 蛍光漂白剤は長時間の光、熱の影響により却って黄変が大となる。(5) 黄化布は洗滌によってはもとにもどらない。